

2026年6月期  
第2四半期（中間期）  
決算説明会資料



証券コード1382 株式会社 ホーブ

2026年2月13日



# 会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	47人（連結） 27人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス



# 事業内容

## 事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

# 業績の概要



# 連結業績

(単位：百万円)

	2026.6期 第2四半期	2025.6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,256	1,272	△16	△1.3
売上総利益	269	296	△26	△9.1
営業利益	△7	35	△43	—
経常利益	△4	36	△41	—
親会社株主に 帰属する 中間純利益	△9	22	△31	—



# セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2026.6期 第2四半期	構成比 (%)	2025.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	1,137	90.5	1,151	△1.2
種苗事業	3	0.3	2	45.3
馬鈴薯事業	46	3.7	51	△9.7
運送事業	68	5.5	67	2.6
連結	1,256	100.0	1,272	△1.3



# セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2026.6期 第2四半期	2025.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	76	107	△28.7
種苗事業	△2	△4	—
馬鈴薯事業	1	5	△62.9
運送事業	5	8	△40.8
調整額※	△88	△81	—
連結	△7	35	—

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

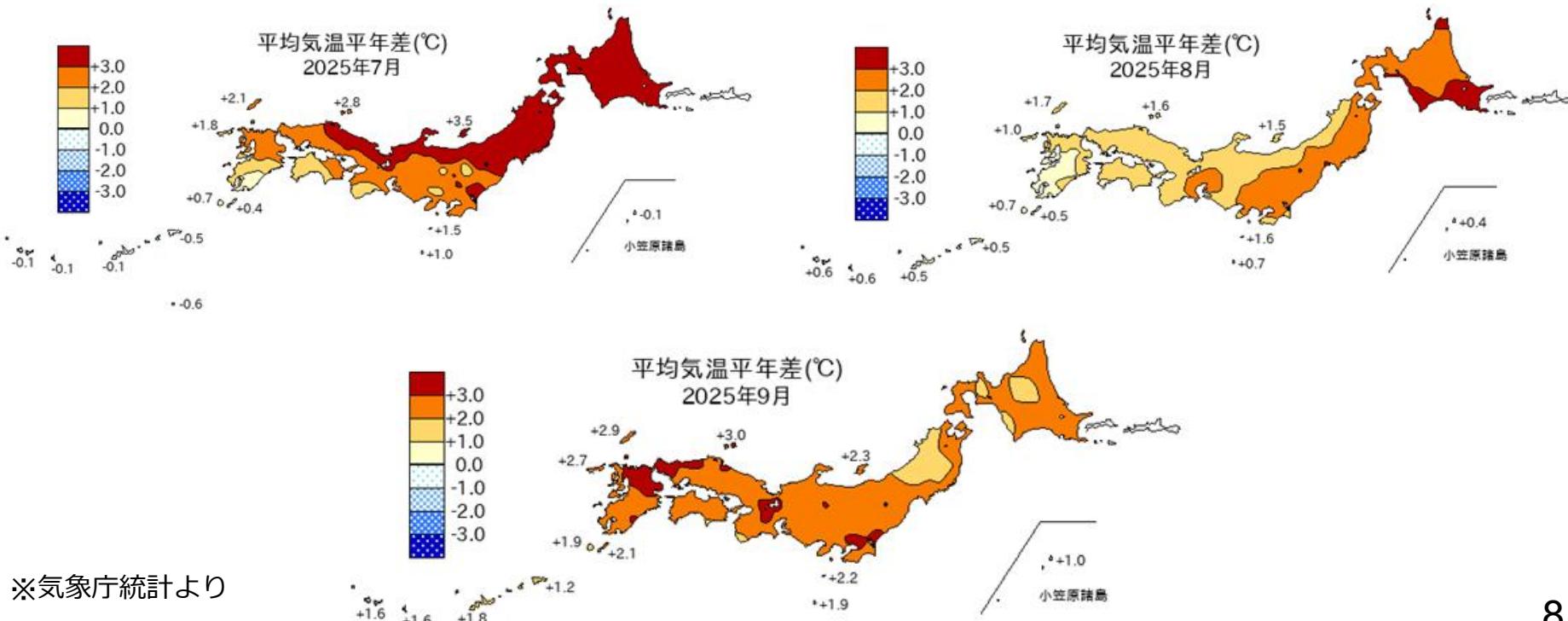
# セグメント別の状況



# いちご果実・青果事業－夏秋期の気象条件－

- 自社品種の主力産地である北海道の夏（6-8月）の気温は過去最高を記録。
- 全国的に9月も気温の高い日が続き、厳しい残暑となる。

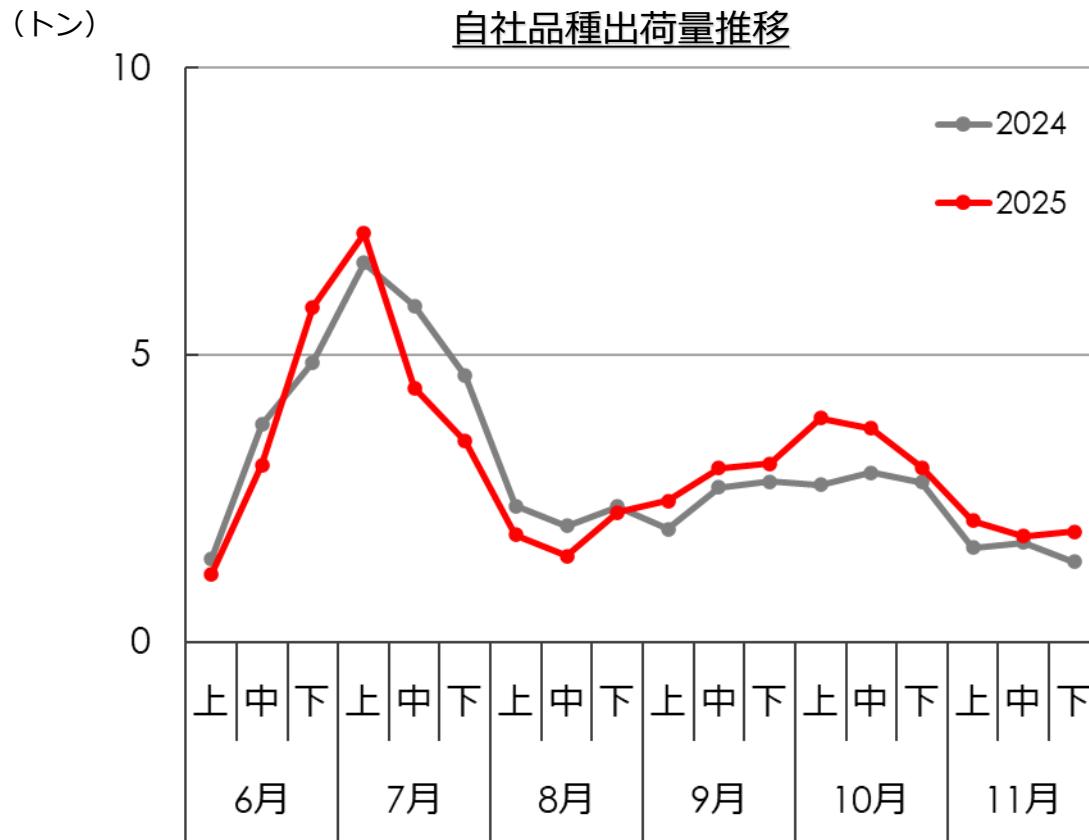
2025年 7~9月 平均気温平年差





# いちご果実・青果事業－自社品種の出荷状況－

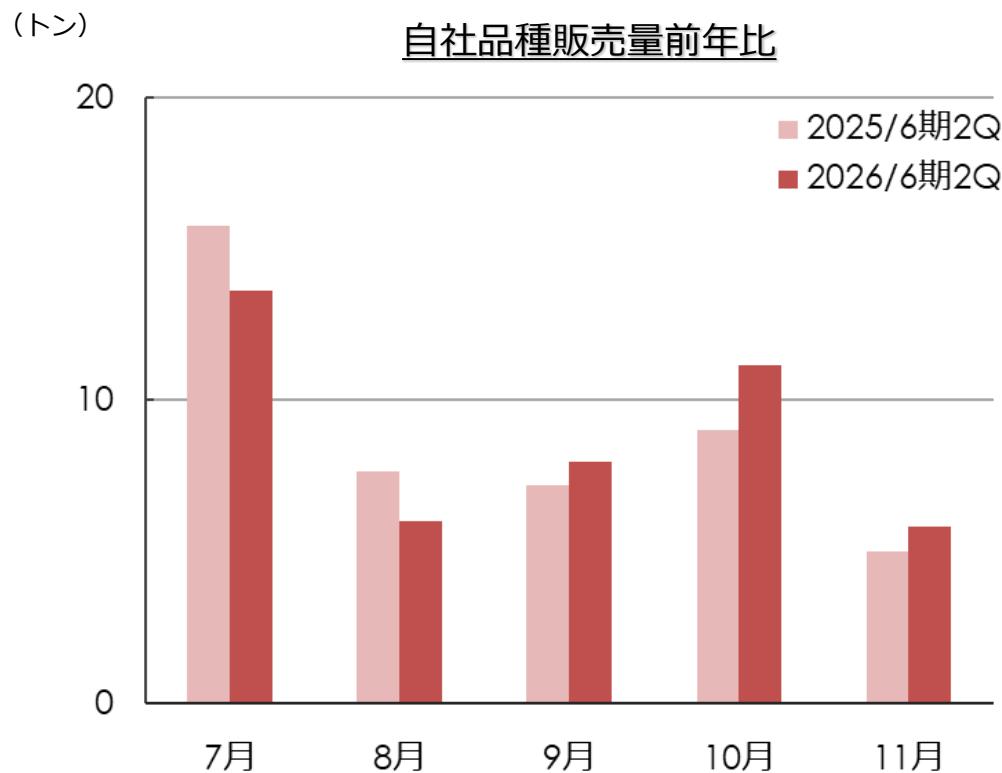
- 6月からの長期間の高温の影響により7月中旬～8月中旬にかけて出荷量が前年よりも落ち込む。
- 早めに栽培株を休ませるなどの対応により、前年に比べ秋の出荷量は増加。





# いちご果実・青果事業－自社品種の販売状況－

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の販売は生食用向け、業務用向けともに引き続き好調に推移。
- 記録的な猛暑による影響はあったが、猛暑を想定した栽培管理の対応により秋の販売数量は前年よりも増加。7～11月の自社品種の販売数量は前年並みを確保。

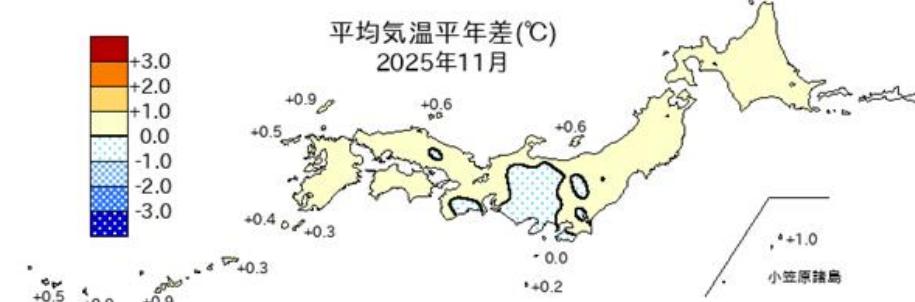
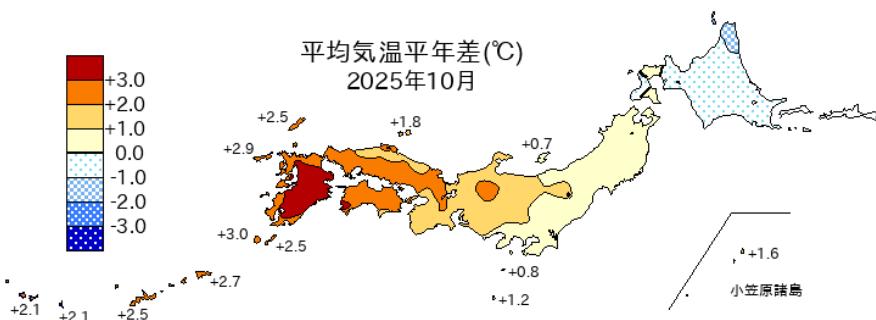




# いちご果実・青果事業－クリスマス期の気象条件－

- 10月は気温は高かったものの、停滞前線の影響で東日本で特に日照時間が少ない曇天の日が続いた。
- 11,12月は比較的暖かい日が多く、気温は平年並みで推移した。

2025年 10～12月 平均気温平年差

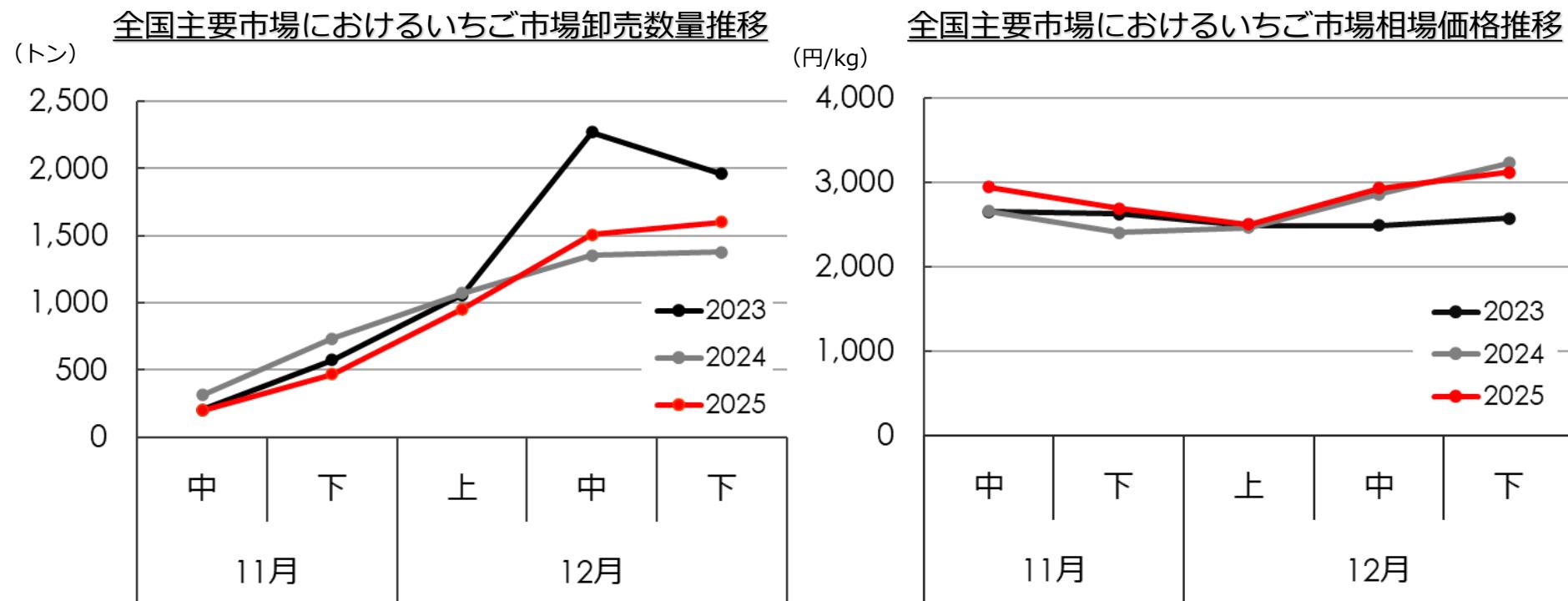


※気象庁統計より



# いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 厳しい残暑の影響により定植時期が遅れたことに加え、定植後の10月の日照不足でさらに遅れが広がった。
- 生育の遅れに伴い、11月から市場へのいちご果実入荷量は少なく、12月に入っても大きく増加することはなかった。



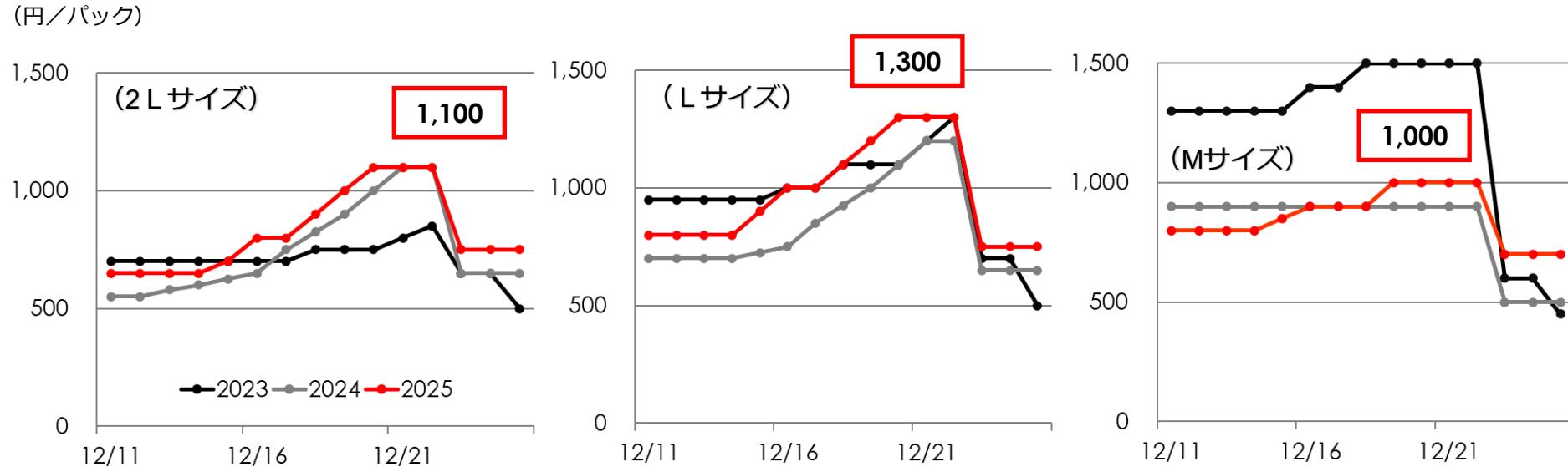
※農林水産省統計より



# いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 物価高による消費者の節約志向と原材料費の高騰を受け、取引先のいちご果実の使用量は減少傾向。
- 出荷時期の遅れにより大玉の果実の比率が高い状態でクリスマス時期を迎える。このため、業務用サイズの果実は極端に品薄の状況となる。
- 猛暑の影響と大玉品種への切替による業務用サイズの不足を想定し、全国の生産地から調達を行う。仕入数量の確保に努めたものの、販売数量は前年同時期を下回った。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）

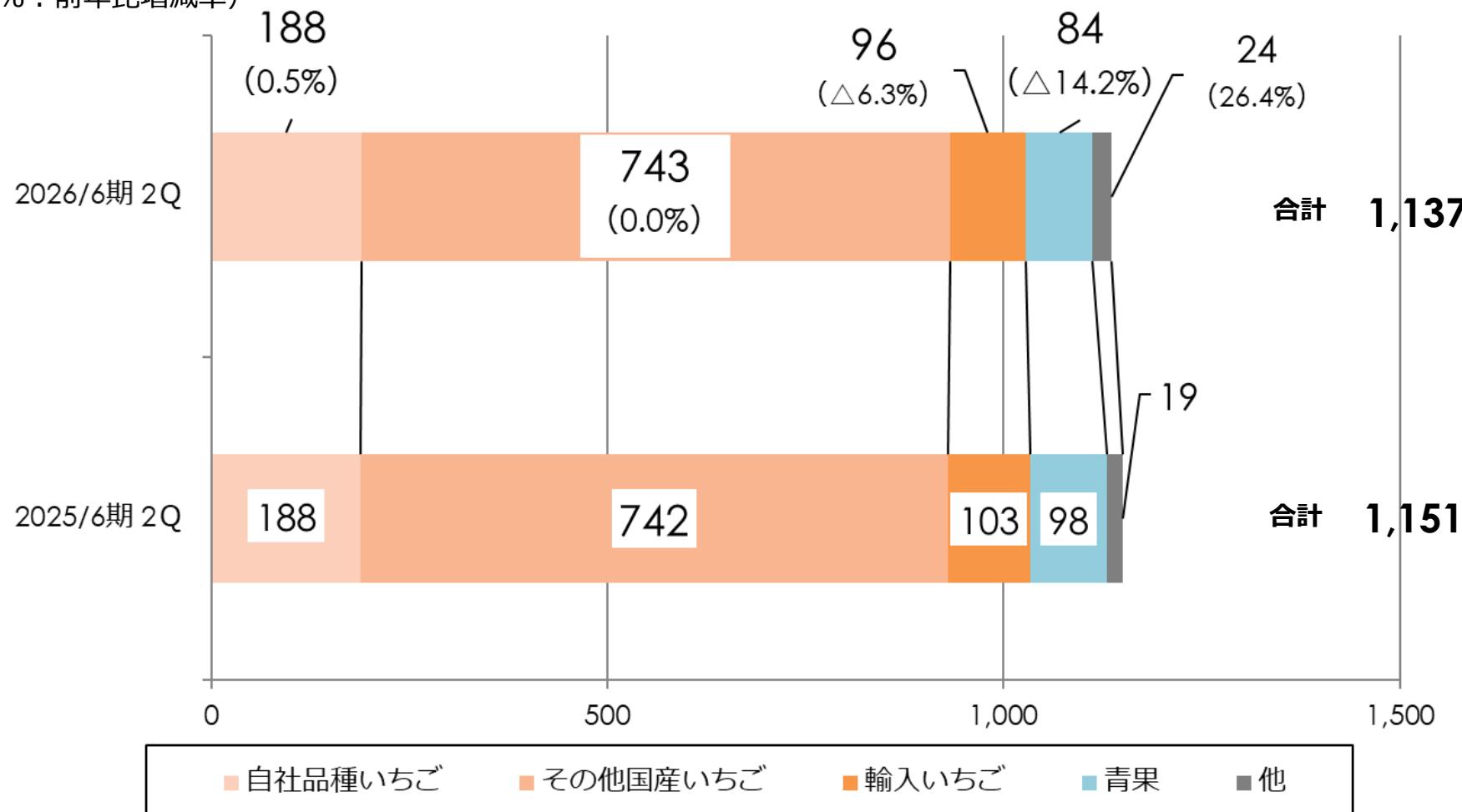




# いちご果実・青果事業一品目別売上高一

(単位：百万円)

(% : 前年比増減率)

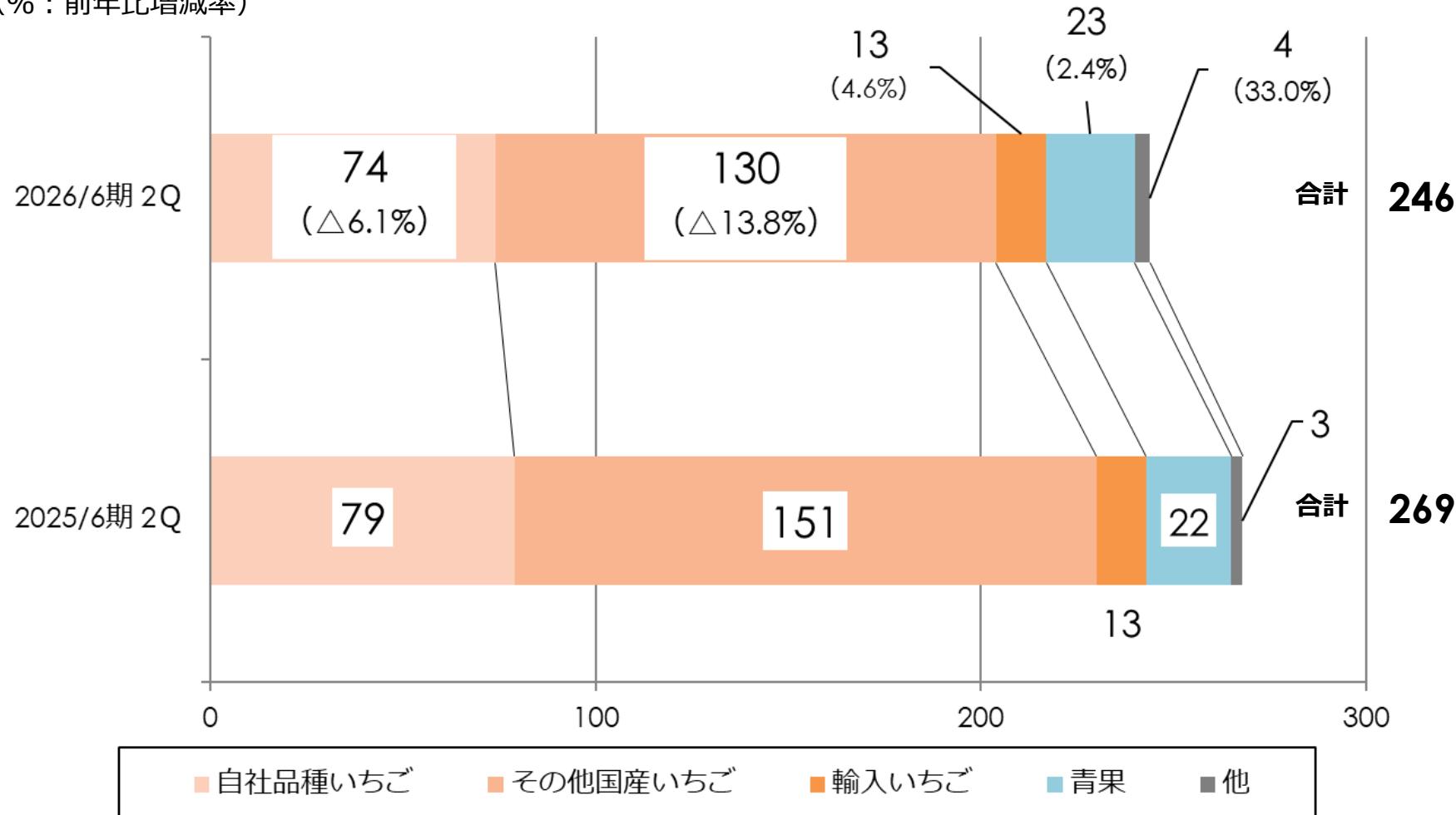




# いちご果実・青果事業一品目別総利益一

(単位：百万円)

(% : 前年比増減率)



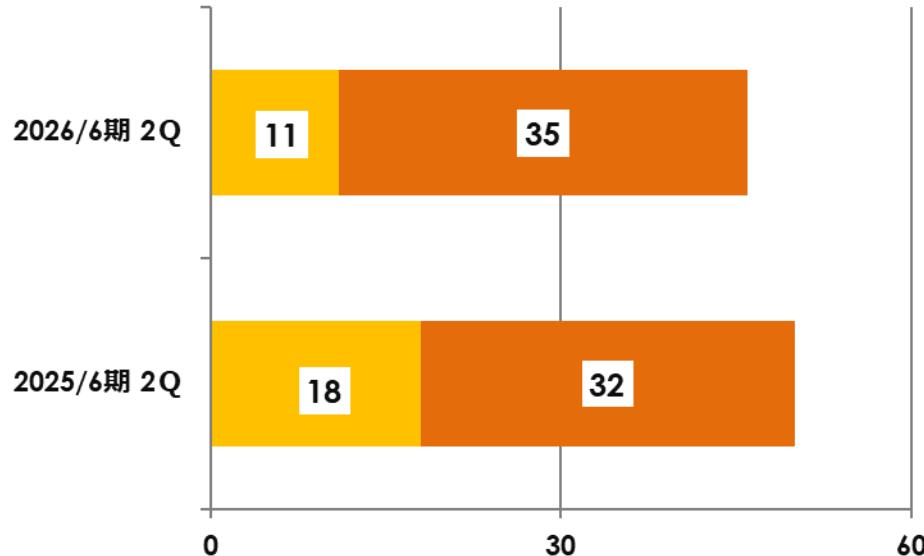


# 馬鈴薯事業

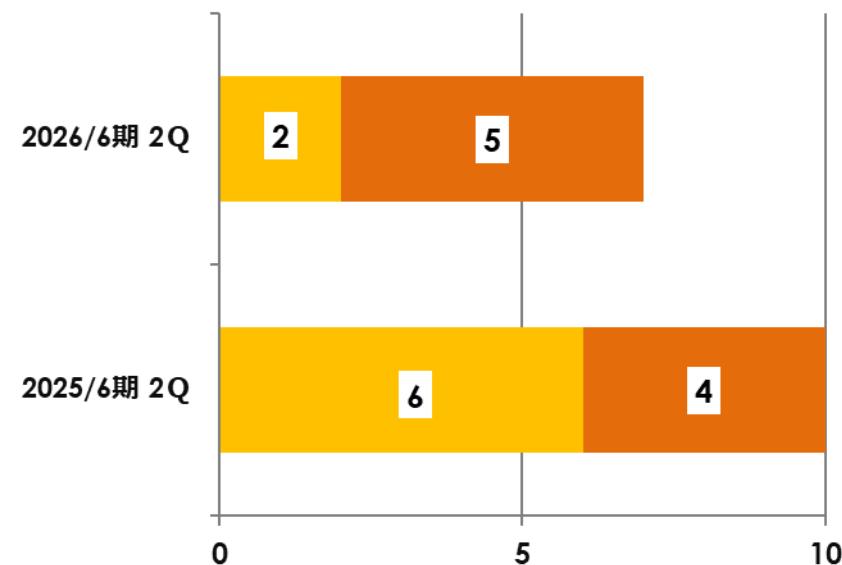
- 秋作向けにおいては、種馬鈴薯の生産面積の減少により種馬鈴薯の供給が不足。
- 春作向けも、種馬鈴薯産地の高温や干ばつの影響で生産量が減少。特にオリジナル品種の販売数量が確保できず、売上高・利益ともに前年を下回る結果となる。

(単位：百万円)

2 Q 馬鈴薯事業の売上高比較



2 Q 馬鈴薯事業の総利益比較

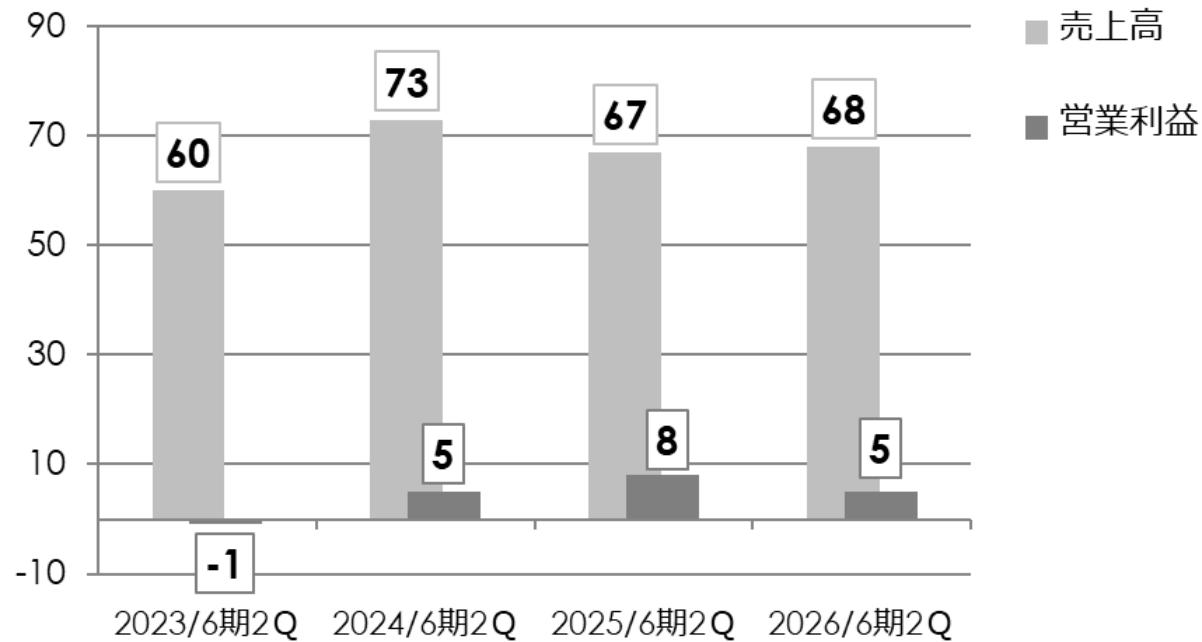


■種馬鈴薯（オリジナル） ■種馬鈴薯（一般） ■青果馬鈴薯等 ■その他

- 受託業務の入れ替えにより売上高は若干増加。利益については、人件費および配送車両の増車による減価償却費が増加したため前年同期を下回る。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは2013年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



# 今後の対応

## いちご果実・ 青果事業

- ・着実に消費者に浸透している自社品種「夏瑞／なつみずき」の食味の良さを活かし、百貨店ギフト等、生食用を主体とした販売を継続。
- ・自社品種と国産他品種さらに海外産いちごも併用することで、夏秋期の安定的な果実の供給に努め、冬春期の販売につなぐ。
- ・促成いちごの販売時期（主に12～5月）において、採算性を重視した販売体制を継続。品種動向に対応し、全国の産地からの仕入体制を構築。

## 種苗事業

- ・当社の有する四季成性いちごの育種開発力、栽培技術を活かし、海外展開を積極的に推進。
- ・作型・栽培管理方法の改善により秋以降の収穫量を確保し、近年の猛暑等の気象変動に対応。新規産地の開拓。
- ・あらゆる栽培環境に適応し、国内だけでなく海外でも求められる新品種の開発。
- ・温度、湿度、光などの環境条件を制御した中での優良果実の生産方法の確立。

## 馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種および一般品種の生産面積が減少していることを受け、適正な数量の仕入管理と販売単価の見直しを行うことで収益を確保。

## 運送事業

- ・新規荷主獲得のための営業を継続。
- ・人員の補充を図るとともに自社配送比率を高め、利益の向上を目指す。



2026年6月期

# 連結業績通期の見通し

## 連結業績通期予想

(単位: 百万円)

	2026.6期 通期予想	2025.6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	2,482	2,412	69	2.9
営業利益	24	38	△13	△36.3
経常利益	27	39	△12	△31.5
親会社株主に 帰属する 当期純利益	18	24	△5	△24.0

\* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値を修正しております。